

加賀美幸子

アナウンサー(元NHK)・千葉市女性センター名誉館長



耳で聴く『看護覚え書』。朗読の響きは言葉の意味を際立たせてくれます。

辰巳 芳子 料理研究家・随筆家



クリミア戦争時、ヴィクトリア女王は瀕死の兵士に牛肉スープを送りました。口から食べることの大切さ。辰巳さんは「病院食にスープを」と提唱しています。

映画「看護覚え書」を作り終えて

20年前、取材先の病院でナイチンゲール著作集を目にしました。クリミア戦争の偉人としてしか認識していなかった過去の人が多く、その書物を世に出した人であったことに驚きました。何よりその文体が持つ独特の強さ、主張の揺るぎなさに圧倒されました。

「看護覚え書」を初めて読んだときの感動を、いつか映画にしたいと考えて20年が過ぎ、ナイチンゲール没後100年のこの春、わたしは川嶋先生とお会いするという幸運を手にして、初念が形になりました。

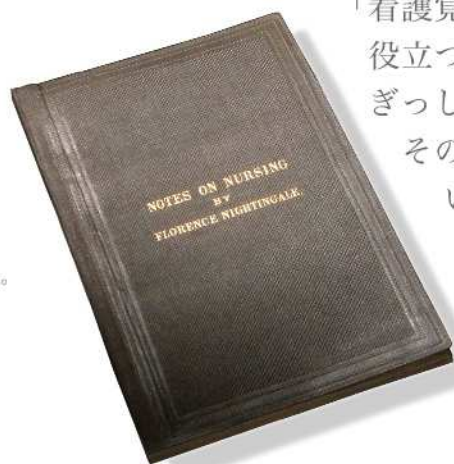
時代をくぐり抜けてきた「古典」は「現代」である。映画「看護覚え書」を作り終えて改めてその思いを強くしています。

U.N.Lim ited 今泉 文子

ALL DISEASE IS A REPARATIVE PROCESS

病気は回復過程である ナイチンゲール「看護覚え書」より

ハイビジョン作品 45分



『NOTES ON NURSING』
「看護覚え書」

フローレンス・ナイチンゲール (1820-1910)
Florence Nightingale



看護に目覚めてヨーロッパ中の病院・施設を精力的に回った若き日々



約150点もの膨大な著作を残して90年の生涯を閉じた

ごあいさつ

『看護覚え書』に流れる珠玉のような言葉を、映像で表現することなど果たしてできるのだろうかとの一抹の不安はありましたが、今泉監督とお話しているうちに、その実現可能性が見えて来て、没後100年記念として上映にこぎ着けることができました。



未知の挑戦に対して惜しみないご支援を下さったみなさまに、この場を借りて厚く御礼申し上げます。そして、全国の数え切れない多くの看護職者のみなさまの友情の支えが映画製作にとってどんなに弾みになったことでしょうか。本当にありがとうございました。

映画「看護覚え書」をつくる会代表
川嶋 みどり (日本赤十字看護大学教授)



福井 次矢

聖路加国際病院院長・京都大学名誉教授

「ナイチンゲールが、当時台頭してきた統計学を駆使して医療や衛生の改善・発展に大きく貢献したことは、あまり知られていません。」日本にEBM (Evidence-Based Medicine- 根拠に基づく医療)の概念を紹介した福井先生

林 望

(作家・国文学者)

ナレーターは『イギリスはおいしい』の林さん。現在『謹訳 源氏物語』を刊行中



企画制作 映画『看護覚え書』をつくる会
U.N.Lim ited